

インターバンクの声（2016年11月29日）

トランプ氏が米大統領選で勝利して以降、25日(金)のアジア時間までドル/円相場が1円超下落することは一度もなかったが、昨日は2円50銭を超える急落が見られた。ドルの上げ幅が大きくなり過ぎたことによる調整や米長期金利の上昇が止まったことなどが理由として挙げられているが、これまでおとなしかったトランプ次期大統領の発言が安定性を欠き始めたことも理由にされているようだ。

確かに明日30日(水)には石油輸出国機構(OPEC)総会の開催、12/1(木)の米サプライ管理協会(ISM)製造業景況指数、2日(金)の米雇用統計の発表も予定されており、一度積み上げてきたポジションを整理する動きが広がるのも仕方ない。

また、英国の欧州連合(EU)からの離脱を決めた国民投票と米大統領選挙に続き、今年3度目の番狂わせになるかも知れないイタリアの憲法改正を巡る国民投票を気にする人も多い。

東京の昼前からドルが反発し始め、ニューヨーク勢が動き始めた頃には112円80銭付近まで戻っていたドル/円だが、その後再びドルが下落している。ドルを買い持ちにしている人たちにとっては、一時の調整と理解して我慢すべきか、利のあるうちに売るべきか悩ましいところだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。